

臨床検査技術科だより

平成 29 年 3 月

Vol.95

岩手県立中央病院 臨床検査技術科

冬の寒い季節も終わりが近づいてきましたが、暖かくなったり、寒くなったりと体調を崩しやすい時期でもあります。インフルエンザも、まだまだ油断できないので皆さん気を付けましょう。

今年度最後の「臨床検査技術科だより」では、昨年末に検査科が実施した、全病棟の採血管・培養用スワブ・血液培養ボトルの期限等・保管状況の確認についてご紹介します。

皆さん、採血管の期限って気にしていますか？

ある日・臨床検査技術科に期限切れの血液培養ボトルが戻ってくるがありました。血液培養ボトルって、1本1100円もするんですよ！！

そこで急遽昨年12月、全病棟の各種採血管や培養用スワブ・血液培養ボトルの在庫保管調査を実施しました。

医療の質の向上及びコスト削減を目的とし、すでに期限が切れたものは回収し、期限が短いものは外来採血室へ配置転換し期限内に使用されました。回収した採血管等の材料は全体で**551本**あり、そのうち期限切れのものは**301本**でした。内訳としては以下の表のような順位となりました。

	期限切れの材料		期限切れ間近の材料	
1位	血糖用採血管	82本	凝固用採血管	106本
2位	外注用採血管	79本	外注用採血管	26本
3位	凝固用採血管	62本	血液培養ボトル	18本



※ラウンドの様子

管理のポイント

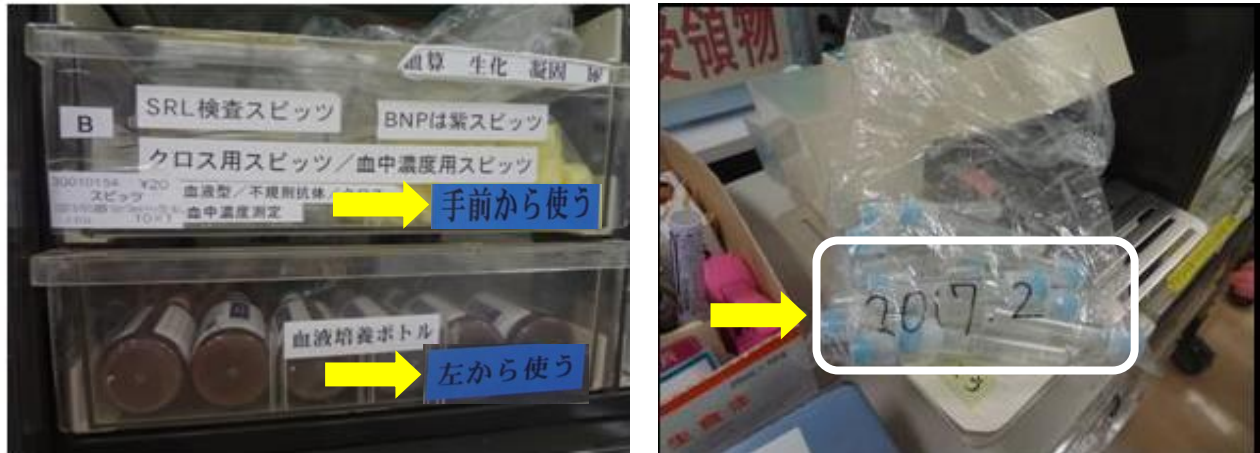
特に注意が必要なものとして期限切れの材料でも多かった**外注検査用**の採血管や普段使っている**凝固用**、**赤沈用**の採血管などです。これらの採血管は**液体の試薬(抗凝固剤)**が中に入っており、不適正な管理状況では**蒸発による試薬の濃縮・劣化**があります。また、古い採血管は陰圧が低下し、十分な採血量を採取できなくなります。特に凝固検査用の採血管には、初めから採血管にクエン酸ナトリウムが添加されています。そのため、採血量が少ないと血液との混合比が変わり、APTTおよびPTが延長する恐れがあるため注意が必要です。



※注意が必要な採血管の例

こんな管理方法がありました

ある病棟での採血管、血液培養ボトルの保存方法の写真です。



この病棟では「**期限切れの採血管や血液培養ボトルが0本**」でした！！

保存ケースには**ボトルの使用順を表記**し、期限の短いものから並べて使用されています。また、**採血管の期限を記入し袋単位**で保管されていました。

どちらも些細なことではありますが、ほんの少し意識することで大きく改善されます。このように材料等を適正に管理することは検査精度及びコスト管理において重要なことです。

臨床検査技術科でも、保管方法について検討し適正管理の取組みについて情報提供していきたいと思えます。

検査技術科内でも活動を始めました

検査科での保管・払い出し方法を変更しました。

凝固採血管は、有効期限の書いてある小袋毎に保管するようにし、箱単位での持ち出しは禁止となりました。

また、**赤沈採血管**や**外注PC2/PC5**については使用分のみでの払い出しとなります。

未使用分は、検査科へ速やかに返却願います。

次回は、4月中のラウンドを予定しております。
引き続き適正な在庫管理をよろしく願います。



2階臨床検査技術科前の廊下に準備してあります